

ソーシャルキャピタルはいかに文化継承に寄与するか

一東秩父村における文化財保存活用地域活動計画のための基礎調査を通して

城西大学 現代政策学部社会経済システム学科 土屋政策ゼミナール

1. はじめに

2018年に改正された文化財保護法以降、文化財の在り方は大きく変化
→文化の保存と活用を目的とした「文化財保存活用地域計画」の策定
・文化財の保存と活用を行うためのビジョン・事業計画

- これまで：
- ・指定文化財が主な対象
 - ・文化財の保存が中心
- これから：
- ・指定文化財以外も対象に
 - ・文化財を地域づくりに活かすことも重要に
 - ・文化財保存活用地域計画→各自治体で作成する
 - ・東秩父村における「文化財保存活用地域計画」の作成に、ゼミが協力



東秩父村における 第三次産業の就業者数		データ： 国勢調査（2020年度）
産業	就業者数	割合
電気・ガス・熱供給・水道業	3人	0.41%
情報通信業	6人	0.82%
運輸業、郵便業	83人	11.31%
卸売業、小売業	144人	19.62%
金融業、保険業	6人	0.82%
不動産業、物品賃貸業	5人	0.68%
学術研究、専門・技術サービス業	22人	3.00%
宿泊業、飲食サービス業	61人	8.31%
生活関連サービス業、娯楽業	59人	8.04%
教育、学習支援業	37人	5.04%
医療、福祉	153人	20.84%
複合サービス事業	18人	2.45%
（分類外の）サービス業	76人	10.35%
（他に分類されない）公務	61人	8.31%

2. 地域の概要

埼玉県東秩父村

- 人口：2350人（2025-09-01現在）
- ・人口減少が続いている
 - ・高齢化率（＝65歳以上の割合）：46.5%（2024年）

地理

- ・比企郡（ひきぐん、＝小川町・嵐山町など）との繋がりが強い
- ・村外への路線バス：～小川町駅・～寄居駅
秩父方面への路線バスはない

自然

- ・秩父山地の東端に位置
 - ・笠山や堂平山など800m級の山々に囲まれている
 - 春：桜や新緑 夏：清流の涼しさ
 - 秋：紅葉の鮮やかさ 冬：雪景色
- ・ハイキングや自然散策に古くから親しまれている

交通

- ・2016年度～
「東秩父村地域公共交通網形成計画」による公共交通網の再編
 - ・村営バスと民間バスの2系統
→村営バスを廃止、本数の適正化を図る
 - ・道の駅（和紙の里）にハブとなるバス停を整備
- + 道の駅を中心にバス網を再編
 - ・道の駅～小川町駅系統の増加、鉄道との接続強化
- ・バス空白地区へのデマンド交通の拡充

第一次産業

- ・農林業が中心
 - ・米や野菜、茶などの栽培に加え、果樹や畜産
 - ・森林資源を活かし、木材生産や森林保全が地域の生業を支える
 - ・伝統的な産業としての位置づけ
→ユネスコ無形文化遺産「細川紙」の和紙づくりに結びつく

第二次産業

- ・植物の繊維を材料にして作られる縄、竹縄（たかなわ）が特産
- ・扱き（しごき、繊維をこする作業）など、すべての工程が手作業
- ・代表的な竹縄は竹の繊維から作られる
→近年：イノシシの影響により竹の採取量が減少
竹縄製作にも支障が出ている

第三次産業

- ・全国平均と比較すると割合はやや低め
（全国平均：72.8%、東秩父村：56.6%）
- ・医療・福祉、卸売・小売業が比較的多い
 - ・地域住民の生活支援に密着した業種が中心
- ・観光関連は限定的、宿泊・飲食業は少数ながら存在
- ・公務や教育関連も一定数存在、地域の基盤サービスを支えている

3. 事前調査

- ・「細川紙」が有名
 - ・ 東秩父村・小川町で作られている和紙
 - ・ ユネスコ無形文化遺産に登録 (2014年)
- ・ 他の伝統文化：神代里神楽・獅子舞・竹縄など
- ・ 多くの伝統文化が存在し、受け継がれている
 - ソーシャルキャピタルが豊かなのではないかな？
 - ・ 「ソーシャルキャピタル」= 「人と人との信頼関係（絆）やネットワーク」
(厚生労働省：地域保健対策検討会報告書 より引用)

4. 調査の概要

獅子舞 (梅澤さん)

- ・ 人口減による問題が多く存在
 - ・ 準備・開催に必要な人手が不足
 - ・ 若者世代が地区外へ流出
- ・ コロナ禍の自粛ムード→その雰囲気が続いている
- ・ 祭りによる経済効果が低下している

竹縄 (たかろ) (梅澤さん)

- ・ かつては商売として成り立っていた
 - ・ いかだ、茅葺きなど
- ・ 近年：イノシシによる食害
 - 材料である竹が取れなくなっている
- ・ 技術は継承されている
 - ・ 村外で竹縄づくりをしている方がいるそう

細川紙 (市村さん)

- ・ 様々な植物の繊維から作られている
- ・ 人手不足に直面してはいる
 - 人手が増えた場合、事業として成り立たなくなってしまう
 - ・ 需要と供給、伝統工芸と営利活動のバランス
- ・ 元々使っていた人、魅力を持っていた人
 - 細川紙の作り手になることもある

神代里神楽 (坂本地区 坂本八幡大神社) (大澤さん)

- ・ 観客 (特に子供) が楽しめることを意識している
 - ・ 観客との「ゼロ距離」での交流、舞台に観客を上げるなど
- ・ 地域外からの移住者・参加者が増えている
(外国人、駐在所の方など)
 - ・ 出身地・国籍や性別などは関係なく歓迎する
 - ・ オープンな姿勢
 - ・ 移住者が別の人を呼ぶこともある

5. 考察

- ・ 人口減少・高齢化による文化への影響は大きい
 - 絆・活力が生まれる余地がなくなるのでは？
 - ・ 今回の場合、獅子舞が特に顕著
- ・ 竹縄の素材が取れなくなっている
 - 地球温暖化によって野生動物が冬を越すようになり、その数が増えているからでは？
- ・ 竹縄の話し手の方 → 秩父 (= 他地域) から来た
 - 東秩父村の中では後継者が不足している
 - ...が、他地域 (= 他のネットワーク) との関わりは、昔と比べて盛んになったのでは？
- ・ 細川紙→新規に顧客を開拓しても紙を作れないが、紙を作るために人を増やしすぎても事業として成り立たない
 - 需要と供給、伝統工芸と営利活動のジレンマなどがあり、細川紙職人個人の努力では改善が難しいため、行政や地域住民などの第三者に材料の生産や保存、広報などで協力してもらう取り組みが必要なのではないかな？
- ・ 人々の関わり (ソーシャルキャピタル)
 - 文化継承に繋がっているのではないかな？
(神代里神楽・竹縄の事例などから)

